

きたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） これで、10番、五十嵐議員の質問を終わります。

次に、2番、下道議員の質問を許します。

○2番（下道英明君） 本日、初めて議員として一般質問をさせていただきます。皆様と一緒に元気な洞爺湖町を復活させることをスローガンに、討論、ご提案をしていきたいと存じます。本日最後の質問でございますので、ひとつよろしく願いいたします。

このたびの質問は、真屋町長の町政執行方針に述べられましたように、我が町の主産業でございます観光の振興について、通告に従いまして4点お伺いさせていただきたいと思いま

す。

その前に、一昨日、月曜日でございますが、札幌で読売新聞のビジネスフォーラムに参加することができました。その際、改めて観光振興が当町の成長戦略の1丁目1番地にふさわしいということを確認いたしました。

月曜日の日、講師は前原国土交通大臣でありまして、前原大臣は、観光では北海道は極めて伸びていく可能性があるかと力強く述べておりました。特に、経済官庁のトップが観光振興に力を入れるべきだとの言葉は大変重く、私は勇気をいただいてまいりました。その前原大臣の所管する観光庁が推進しております観光圏認定地域に関連した質問をさせていただきますが、昨日の町長の行政報告でも触れられておりますが、北海道登別、いわゆる西胆振の広域観光圏の見送りなどを踏まえ、当町は今後どのような目標を持って観光振興を推進されていくのかお伺いしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤正人君） 観光圏につきましてのご質問でございます。

観光圏につきましては、西胆振周辺の3市4町、この地域が一体となって自治体の枠を超えた広域観光圏を形成して、2泊以上の滞在型観光を目指すということで、宿泊客5%、外国人客10%増を目標に、関係市町と検討いたしまして整備計画を提出して国の認定を受けようとしたものでございます。

今回、残念ながら認定が見送られた要因といたしましては、一つに国の事業仕分けによる観光圏全体に対する予算が大幅に削減されたということでございます。これにより、当初予定しておりました観光圏の認定の箇所数が大幅に削られたということが一つ要因とありますが、そのほかに今回、観光圏を申請して事業を展開していくということの決定を受けて整備計画を作成したわけでございますが、それぞれ行政担当レベルで、また、観光協会関係等のレベルでの整備計画の作成ということで、民間の視点に立ったノウハウを入れた整備計画をその中に盛り込むことができなかつたということ。それと、大きな観光地同士の連携、整備計画の中の各種事業の中で、観光地同士の連携が十分なのかというような指摘もございまして、今回は認定に至らなかつたということでございます。

この点につきましては、さきに行われました広域観光圏協議会の総会で説明をされたところでございますが、観光圏協議会の総会の場で前回の反省に立った形で整備計画を再度練り直して、再度認定をしていくというような方針決定がされたということで、それに沿って担当レベルで検討協議して、今後、再度認定に向けて申請作業を進めていくということになっております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） それでは、観光圏整備計画及び実施計画の修正の方針が決定したと認識してよろしいでしょうか。

○議長（篠原 功君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤正人君） 民間のコンサル等のノウハウも入れまして、前回の反省に立

った形で整備計画を練り直して、再度申請していくということで方針決定されております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） それでは、ぜひ関係3市3町、当町も入れたら4町になりますが、広域観光圏認定の戦略の見直しということで、ひとつご提案させていただきたいことがございます。それは、具体的に従来の胆振地方の観光圏だけではなく、後志地区のニセコ羊蹄エリアを含めた広域観光圏を構築されることをご提案させていただきます。いわゆる北海道洞爺・登別・ニセコ観光圏とでも申しましょうか、そういった形のご提案でございます。

現在、全国に観光認定地域というのは45カ所あるかと思えます。その中で、北海道では3カ所、そしてことし4月に2カ所認定されました。3カ所のほうは、知床観光圏、札幌広域観光圏、富良野美瑛観光圏がありますが、ことしの4月に新たに函館観光圏、釧路湿原・阿寒・摩周観光圏が認定されておりますが、認定された地域を見ますと、特に札幌広域圏は別といたしまして、その他の4地域に関しては、国立公園、特定公園、道立自然公園が二つ以上重なるところが多いのかなというのが考えられます。その中で、私が今回、北海道洞爺・登別・ニセコ観光圏ということで、もしこのことを3市3町のほうにご提案いただければ、ちょうど支笏洞爺国立公園、そしてニセコ積丹小樽海岸国定公園をカバーすることになりますので、そういたしますと複数の観光地が連携して2泊3日以上滞り型観光、あるいは今言われております着地型観光を目指す観光圏の形成を促進することができるのではないかと考えております。そして、既に北海道洞爺・登別・ニセコ観光圏、これは仮の名称といたしまして、これを先取りした施策が行われているものがございます。

その中で、シーニックバイウェイ北海道という、観光に従事されている方でしたらご存じかと思うのですが、これはどういうことかといいますと、シーニックというのは景色がすばらしい、バイウェイというのは脇道、寄り道ということでございますが、このシーニックバイウェイ北海道というのは、景色を見ての造語でございますが、このシーニックバイウェイというのは主に自動車で走る道路からの視点を、景観、自然、文化といった要素によって観光や地域活性化を行っていくものでございます。特に北海道では、既にシーニックバイウェイ北海道というのが七ルートを選定されておまして、その中に、7年前に支笏洞爺ニセコルートと大雪富良野ルートが指定されております。この支笏洞爺ニセコルートを土台に、胆振、後志の行政の垣根を越えた観光圏の構築は可能と考えますが、いかがでございましょうか。

○議長（篠原 功君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤正人君） この観光圏につきましては、それぞれの自治体の枠を超えた観光地の連携ということでスタートしておまして、12月に構成市町、観光関係団体等による法定協議会が結成されておまして、その法定協議会が総体的な事業等の最終決定の場になっております。

今、事務局につきましては登別市が担当しておまして、今、議員がおっしゃられたニセコ方面を含めた大きな観光圏、これらについてはそれらの長を入れた新たな法定協議会等の

構成と、そういう手続関係の部分が出てくると思います。総会等の場、または幹事会等の場でそのような提案もお話をしていきたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） 私も、今、北海道登別洞爺広域観光圏協議会規約というのを読んでおりました、これは可能かなという形で考えております。

従来の北海道登別洞爺観光圏の原案を踏襲していきますと、多少の計画修正だけでしたらなかなか厳しい認定ということになるかと思えます。特に、洞爺湖、登別地域で2泊3日以上滞り型観光を目指すということになりますと、距離的にも近く、また、観光資源の差別化という点では非常に難しいものがあるのかなと。そして、また、現状のツーリズムの枠組みの中では、非常に無理があるのかなというふうに考えております。

しかしながら、仮に2年連続して今の北海道登別洞爺観光圏を推進して、もし不認定ということになれば、ここの恩恵を受けるものが大きな柱として4点ございます。その中で、一つは、宿泊施設に係る設備投資に対する財政投融資の活用でございます。第2点として、周遊割引券の導入に係る運送関係法令の手続緩和でございます。3番目としまして、観光旅客の来訪、滞在の促進に効果や成果の見込まれる事業に係る補助金の交付でございます。これは、補助率上限40%ということでございます。そして、一番大事なことは4番でございますが、着地型旅行商品の販売に関する旅行業法の特例でございます。これはどういうことかといいますと、今、非常に着地型旅行商品の販売に関する流行を、着地型に対して各観光地、非常に熱心に取り組んでおりますが、この特例というのは、旅行業者だけに認められている旅行商品の販売を、圏域内の周遊ツアーなどに限って、旅館、ホテルなどが直接旅行商品として宿泊客に販売できるという特例の緩和でございます。そうなりますと、これは補助金云々の問題ではなく、洞爺湖温泉街における各ホテルが創意工夫をしながら着地型観光商品の開発、デベロップということを促せるものでございますので、従来の発想をもとにした整備計画及び実施計画の見直しではなく、大胆な発想で北海道洞爺・登別・ニセコ観光圏を提唱させていただきまして、このたび真屋新町長になったわけでございますので、観光立町のキーパーソンとして、当町を含めた3市4町のイニシアチブ、北海道登別洞爺湖の協議会は本部が登別にございますが、洞爺湖、決して人材がないわけではございませんので、ぜひ町長にイニシアチブをとっていただいて、北海道洞爺・登別・ニセコ観光圏を高々に提唱していただきまして、洞爺湖温泉誕生100年から来年以降、ネクスト100年に向けてその礎を築いていただきたいと思いますが、町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏春君） ただいま私どもの町は、登別洞爺広域観光圏の協議会の一員として動かさせていただいている部分がありますが、ただいま課長が申しましたとおり、これから幹事会総会もあろうかと思えますし、できるだけ早い時期に今のご提案をさせていただければなというふうにも思っております。また、それとは別に、いわゆるニセコ方面と私どもの町のほうと何か連携・共同ができないかということに関しましては、登別洞爺観光圏とは別に

考えていかなければならないかなというふうにも思っております。

先ほど、シーニックバイウェイの話も出ました。もう既に京極あたりから倶知安、向こうにかけて、たしか国道にシーニックバイウェイの看板が出ていたかなと思いますが、私どもも湖畔1周ですとか、道道に入る部分ではありますが、道道、国道の垣根を越えて、そういうシーニックバイウェイの指定にもなればなど。さらには、今、国土交通省のほうではデジタルジャパンキャンペーンも展開しているようですし、こちらのほうともうまく連携できればなど。ニセコ近辺のほうとも折衝はしてみたいなというふうにも考えております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

それでは2点目の質問に入りますが、若干補足といたしまして、まず、JR洞爺駅周辺地区の地域活性化をどのように描いているかをお伺いし、北海道新幹線の札幌延伸運動に対するお考えをお伺いするという形になっておりますけれども、補足といたしまして、最近、輸送手段としての北海道観光の利用状況というのは、団体旅行者から個人旅行者の増加によりまして、貸し切りバスの減少から、レンタカー、鉄道の利用者の割合が大変ふえてきております。JA洞爺駅周辺は、地元地域住民だけではなく、鉄道、レンタカー利用者による、いくなれば旅人の空間でもあります。

観光地洞爺湖の表玄関として、JA洞爺駅周辺地区の地域活性化をどのように描いているか。また、延伸運動についてお考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（篠原 功君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） まず、JR駅周辺地区の地域活性化対策についてであります。これにつきましては、昨年度から商工会地域活性化委員会とともに取り組んでおります。

それで、議員お話のように、洞爺駅は洞爺湖町の表玄関でもあります。そして、また、前浜まで約200メートルほどの距離でもあります。観光客や町民が歩いてみたくなるような花、街路樹の通りとして、前浜に出るとのんびりと景色を眺められたり、浜で水遊びもできる。さらに、地場産品も買えたり味わえたりできると。そして、季節ごとのイベントも楽しめる観光客と町民の交流の通りというような形で考え方を描いております。

昨年度につきましては、町が前浜付近のトイレ整備やベンチ等の設置を既に行っております。また、冬のイルミネーション装飾についても、試行的に実施をいたしました。本年度からは、商工会地域活性化委員会により駅前大通の街路樹、これは地先の皆さんの意見により、実はあの通りに桜ですとかイチョウですとかナナカマド、いろいろな樹種が植えられております。それで、皆さんの意見を聞いて、桜ということで既に統一して植栽を終えております。また、花壇やプランターによる花の植栽につきましては、一昨日、6月21日になりますが、地先の皆さんや商工会会員により植え終わり、大変きれいな通りとなっております。ぜひ、皆さんにもごらんになっていただきたいと思っております。

また、この通り等のイベントにつきましても、主なものとしましては、8月に3区自治会と連携し、少し規模を大きくした七夕まつり、ビアガーデンの開催を予定しております。ま

た、冬のイルミネーション、丸太アートによる装飾などの各種イベントを実施する計画で、町民の皆さんや観光客に楽しんでもらえる、そして活性化につながる事業を商工会と連携して推進してまいりたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 澤登企画防災課長。

○企画防災課長（澤登勝義君） 北海道新幹線における札幌延伸運動に対する状況でございますけれども、現時点で新聞記事、テレビ報道などで取り上げられている状況の中で認識をしているというところでございます。

当町における影響につきましては、現時点で未知数でございますが、多面的に検討してまいりたいと。このほか、胆振地域において、従来、北回り線、南回り線という中で、北回りということで決定した後、昨年になりますけれども、胆振次世代鉄道制作研究会というものが苫小牧市が発生で、声かけによりまして、北回りによる室蘭本線に与える影響、新たな太平洋沿岸線における高速鉄道についての研究というものを昨年始めたと、こういう状況でございます。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） 北海道新幹線の札幌延伸の質問は、現実にも札幌まで伸びることになれば、在来線の室蘭本線の特急ですとか、そういった本数が減っていくと、そういう懸念を抱いておりますから、水際にはございますけれども、2015年に新函館、それ以降のことについて、その前に、例えば当町におきまして明らかに札幌延伸、北海道新幹線のメリットというのはないというふうに感じているのですけれども、室蘭本線の在来線に対する急行、特急の本数が減少していくというものも聞いておりますので、そういったところでお伺いしようと思ったのですけれども、理解いたしました。

それと、先ほど伝課長のほうからもありましたけれども、昨日の室蘭民報のほうに駅前彩り鮮やか、商工会が花植え作業ということで、商工会会長と地域活性化事業の委員長もいらっしゃいますので、今後の計画は期待しておりますけれども、JA洞爺駅周辺を美化するだけではなくて、人の触れ合いができる駅周辺にしていきたいという思いがございます。今、郷土資料館が高砂町にございますけれども、例えば郷土資料館の資料の一部を洞爺駅周辺に移設して、高砂にある郷土資料館の観光資源を洞爺駅周辺のところで展示していくといったような形をご提案できればと思います。

なぜなら、最近の観光のキーワードというのは、人の触れ合いでございます。町歩きですとか市場、商店街、出会いの中で、観光施設を見に行くのではなくて、案内人ですとか、あるいはガイドさんの老若男女のボランティアの人たちの表情を見に行くというのが最近の観光の主流なのではないかと思っております。その中で、例えば団体から個人への観光が大きく変わりました。そうしますと、従来の観光振興のやり方も当然変わってくると思っております。例えば、行政や観光関連の皆様が一生懸命観光施設マップをつくったりいたしますけれども、私もそうですけれども、例えば旅行に行くときは、もう既にインターネットで施設ですとかその地域の情報というのはかなり入手しております。旅行に行ったときに何が一番大事かといいま

すと、その町にいる地域の人々が発信している生の情報でございます。そういった点で、マップですとか紙ものということではなくて、直接フェイストゥーフフェイスで触れ合っていく、そういった観光というのを当町も主産業の一つとして考えているわけですから、ぜひ考えていただきたいと思っております。

もし、仮に駅周辺に郷土資料館の資料を見せるような場所があり、昔を懐かしむ地域の方々が歴史の語り部としてボランティア活動として参加することも可能なのではないかなど、そういうふうを考えております。まずは、顔の見えるまちづくりで人の触れ合いができる観光振興をお考えいただきたいと思いますが、その点で町長、ご意見をお伺いしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） ただいま、駅周辺の関係につきまして、いろいろアイデアを出していただきまして、私ども取り入れられるものについては順次取り入れさせていただきたいと思っておりますし、また、関係する課のほうと調整しながら、できるものからやっていきたいなと。今現在、たしか駅交流センターに貸本というのでしょうか、読書の家で、町民の皆さんがなかなか読まないような本をあそこに置かせていただいで、旅行者の皆さんが自由に持っていけますよだとかという方策もやらせていただいているようなのですが、今のアイデア、できるところはぜひ取り入れさせていただきたいと思っておりますので、またアイデアを出していただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございました。

それでは、3番目の質問に入りたいと思います。3番目の質問でございますが、若干質問の文章が答弁に苦慮すると思っておりますので補足いたしますと、ここで出てきております着地型観光ということについて申し上げますれば、例えば北海道周遊が目的の旅行なら札幌を発着場所にして、そこからバスを仕立てて周遊することを着地型と呼んでおります。つまり、目的地に客が集合・解散するタイプを着地型と呼んでおりますけれども、この着地型は地域がプロデュースするものでございます。その中で、体験、交流、学習が目的になることが多く、特に住民の方がボランティアガイドとして参加していくのが特徴でございます。

その中で、洞爺湖芸術館では、先ほど五十嵐議員がおっしゃっていたように、洞爺湖芸術館友の会の協力を得たり、また、史跡入江・高砂貝塚では、アプタフレナイの会が協力をしたり、この会は私が副代表をしておりますけれども、あと、月浦・曙・香川の獅子舞など、埋もれた地域芸能の保存・普及など、いわゆる知名度の低い観光資源を再認識して、具体的に洞爺湖観光の着地型観光に取り入れ、一過性のイベントですとかキャンペーンではなく、住民を巻き込んだ多様な関係機関と連携を図っていくことを検討すべきという質問の趣旨でございましたので、その点、お伺いしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏春君） 芸術館、あるいは入江・高砂貝塚等々につきましては、今、住民の皆

さんのご協力をいただいて運営しているところでございまして、また、月浦・曙・香川の獅子舞等々についても、これは地域の文化伝統芸能ということで、いろいろな場面でご紹介をさせていただいておりますが、点々で終わってしまっていると、なかなか線で結ばれていないという部分が正直言ってございます。それは、この芸術文化だけに限らず、洞爺湖の観光においてもそういうことが言えるのかなという気がしてなりません。

私どもの町には、いろいろな観光資源がございます。それらのものも、ある意味でネットワーク的なものになればなという思いがいつもしておりました。今回、ご質問の中の芸術文化に係る部分、あるいは観光ソフトということでございますが、できればネットワーク的なものにして、町民だれしものが親しめるようなもの、また、発表の場、活動の場を提供していきたいなというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございます。観光立町、地域活性化を実現するためには、今言われているような町じゅうが観光という、そういった観光のコンセプト、地域の多様な担い手と連携して、既存組織が横並びと一緒に洞爺湖町の観光振興に取り組むべき連携が必要であるということで、そういう思いから質問させていただきました。

先週、旅行業者のフォーラムにも参加させていただきましたが、そこで講師が一言言っておりました。団体旅行は戻ってこない。そして、1990年の個人客の割合というのは43%でございましたが、2007年には72%にまでなっております。また、団体につきましては、1990年の占めるお客様は40%でございましたが、2007年には20%にまで減っております。何のための観光振興なのでしょうかと、改めて私たちは認識する必要があるかと思えます。特に人口減少社会、少子高齢化社会、そして20年後、観光を主産業にする洞爺湖町にどれだけの人が住んでいるかということをもう一度考えているわけなのですが、そしてまた20年後に明るい未来があるのだろうかというふうに考えております。

先般、町内の小学校、中学校の運動会、体育祭を5校応援させていただきました。ちなみに小学校は、当町におきまして3校ございます。合計445名でございます。そして、中学校のほうでいきますと3校、258名おります。小中703名います。そういった子供たちを応援しているときに、20年後にどれだけの子供たちがこの洞爺湖町で働いたり、親と一緒に住んだり、あるいは家庭を持ったりできるのかなというふうに考えさせられました。そういった面で、従来、観光は変わったという認識をしっかり持って、観光の振興についてやり方が変わったのだということを、これは行政、民間一緒になって考えていかなければいけないのではないかと考えております。

また、町政執行方針の中に、観光客の入り込みデータについてございましたけれども、私は観光客の入り込みデータに対して一喜一憂する必要は全くないと思えます。例えば、雪まつりに何十万人、何百万人集まろうが、要は人を集めてそこでどれだけの経済効果があったかということをしつかりと見つめていかなければいけないと思うので、そのデータ自体、実際に雪まつり、よさこいもそうですけれども、正式にカウントできるというのは物理上無理

かと思えます。そういった点で、どれだけ経済効果があるかということを僕らは認識していかなければいけないと思っております。

あと、ここに民間の宿泊についてのデータがございます。宿泊施設の1泊2日の宿泊単価でございます。九州の有名な湯布院、ここは1泊2日で2万2,356円でございます。そして登別が1万3,097円でございます。洞爺湖が1万1,316円でございます。湯布院の単価は、実に登別の1.7倍、洞爺湖に至っては1.9倍、約2倍でございます。そして、宿泊人の構成人数からいきまして、湯布院は1名から2名が42%を占めております。登別、洞爺湖は28%、21%、そして15名以上の団体客に至りましては、湯布院は8%でございます。そして、登別に至っては23%、洞爺湖は29%でございます。そうしますと、先ほどの北海道登別洞爺湖、一生懸命観光圏を構築しようとしても、やはり似たもの同士ということになりますので、チームをつくる場所は新たに構築していくべきかなと思えます。

また、この宿泊単価についてですけれども、これは宿泊客にアンケートをとったところ、施設で観光地を選択はしていないということでございます。ということは、宿泊単価は観光客の評価であって、しかし、宿泊単価は旅館、ホテルの個々の評価ではないということでありまして。観光客は、地域の評価をしているのであって、地域ブランドとしての評価をしているのであります。繰り返すと、洞爺湖の宿泊施設を評価しているのではなく、この湯布院、登別、洞爺湖は、私たちの町を評価しているのであります。

そこで、観光が変わりました。観光振興のやり方が変わりました。その中で、設備投資がある旅館、ホテルは、施設は変わることはできません。しかし、地域は変われます。そういった点で、思いのある住民の方たちと連携をとって、町じゅうが観光、地域の暮らしを支える人と一緒になって農・工・商と連携して地域の資源を生かした地域主導、住民主導の着地型観光を確立して、次世代の子供たちが帰ってこれる、虻田っ子、旧洞爺村っ子が帰ってこれる、700数人の人たちが親と一緒に住める、孫と一緒に住める、そういった町を私どもで築いていきたいと思っております。ぜひ、こういった点を踏まえて、再度、真屋町長から思いをお伺いしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏春君） 下道さんの熱い思いといいましょうか、そのとおりだと思います。私ども、洞爺湖温泉、あるいは観光地洞爺湖を抱えていて、今何が足りないのか、一口に宿泊者が60万人と言いましても、私どもの町、人口1万足らずのところ60万ものお客様にお泊まりになっていただいた。これは大きなことだなというふうに認識しております。一時期は100万もありましたが、人口の何倍もの方がこの町に来てお泊まりになっていただいている。これは、先人の方々のご苦勞がここにあったから、今現在こういう状況にあるのかなというふうにも思っております。

ただ、これを発展させるためには、何とかおもてなしの心を持って、観光業者だけでなく、住民一人一人が来ていただいたお客様に洞爺湖町はいいところですよということをPRできるような体制づくりが必要なのかなと。そのためには、ここに住んでいる方一人一人の

意識改革が必要なのかなというふうにも思っております。そのためには、私ども行政も一体となってこれからも頑張りたいと思いますし、議員各位におかれましても、ぜひそういう方向で応援をしていただければというふうに思っております。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございました。

それでは、最後の質問者、そして最後の質問でございますので、次に入らせていただきます。

4番目の質問でございますが、ジオパーク認定により地質学研究者、海外研究者の来町増加の傾向を機に、みずうみ読書の家など既存施設を日本一の地質学関連の蔵書が多い図書館、あるいは地質学の外国文献の多い図書館など、特徴ある地域の拠点となるような整備を進めるべきと思いますが、その点についてお伺いいたします。

○議長（篠原 功君） 網嶋教育長。

○教育長（網嶋 勉君） みずうみ読書の家につきましては、議員もご存じだと思いますけれども、従来より洞爺湖温泉という地域にございますので、火山や地質学に関する書物を積極的に整備している。あわせて、地域の町民の方の読書活動の拠点といたしますか、憩いの場としての施設づくりを進めているところでございます。

みずうみ読書の家を整備してから数年たっているわけでございますけれども、教育委員会といたしましては、読書の家としての特徴といたしますか、そういう考え方としては、現在、有珠山という火山を抱えている町でありますので、火山に関する専門書、それから町民や観光客の方に有珠山のことをできるだけ知っていただきたいという考え方で図書や写真などを整備しているという状況でございます。

また、噴火災害時にロータリークラブから図書の整備を図ってくださいということで、今年度から4年ぐらいで整備を進めることになってございますが、これらの整備につきましては有珠山関連の図書、それから一昨年、北海道洞爺湖サミットが開催された町でもございますので、現在の考え方としては環境に関する図書もそろえて整備をしたいと、そういう考え方でおります。

ご提案のジオパーク認定に伴っての地質学等の図書の整備というのも一つの考え方であると思っておりますけれども、現段階ではこういう町の財政状況でございますので、なかなかそういう部分での整備も、先ほど申し上げましたように、ロータリークラブの寄附を中心に整備を進めていくという考え方でございますので、ご提案の関係につきましては、みずうみ読書の家に関しましてはもう少し検討が必要かなということでございます。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） わかりました。徐々に徐々に蔵書等を充実させていただければと思っておりますけれども、いずれにしても観光情報センターを外国人研究者、あるいは旅行者、それと、今、洞爺湖温泉街のほうには、アジア系の研修生でホテルに携わっているスタッフがおります。そういった町内外国研修生の表玄関として、ぜひ観光情報センターをみんな

なが集まってくるような空間、スペースにしていきたいと思います。そして、海外旅行の人たちを取り込んでいく、いわゆるインバウンドの旅行者を取り込む工夫というのもの、やはり必要ではないかなと思います。

先般、月曜日に前原大臣もおっしゃっていましたが、とにかくこの4年間の中で外国人をたくさんふやしていくと。来月7月に中国人観光客のビザ緩和をしていくと。そして、新千歳空港におきましては、現地時間の対応においてのフライトの時間帯を決めていくということで、より一層、当町の場合は千歳空港と非常に距離的にも近い状況でございますし、また、外国人の喜ぶような施設等もこれから一つ一つ再確認してご提示していければ、観光振興についてさらなる進歩があるのかなと思います。

また、最近私もよく行くのですけれども、観光情報センターで外国人旅行者が急増しております。特にバックパッカー、これはリュックサックを背負って移動するフォリナー、外国人ツーリストでございますが、彼らバックパッカーが非常に多いです。私も、この1カ月間の中で十数人、いろいろなお話をさせていただきました。スイスから来ている方、あるいはアメリカから来ている方、そして東アジアから来ている方等ございました。そういった方たちは、ジオパークに対して大変興味を持っております。そして、ふらっと立ち寄る形でみずうみ読書の家を見て回ったりしておりますけれども、いかんせんそういった蔵書等ライブラリーのストックが少ないものですから、ふらっと行ってふらっと帰ってしまうという形ですので、ちょっと残念に思ったわけなのですけれども、その中で、みずうみ読書の家が、地質学の文献ですとか、あるいは地質学の外国文献を徐々にふやしていく特徴あるライブラリーになっていけば、国内外の研究者限定の、あるいは発展的ではございますが、ジオパーク研究スペースを提供できるような環境になれば、アカデミックなセンターとして観光振興にも役立つのではないかなと思っております。

また、地元ホテルのご協力を得ながら、地元の婦人部の皆さんが生け花ですとかお茶を中国人研修生の皆さんに教えて、そして、その反対に、婦人部の方が中国語を学ぶとか、そういうクロスカルチャーといったものを、中国人研修生の方たちも、ただホテルで働いてジャパニーズカルチャー、ジャパニーズビジネスを学ぶということではなくて、お互いがせっかくその地域、その場所で働いているわけですから、地元と接して交流を深めていく。旧洞爺村のほうでイギリス人を受け入れている、あるいは本町におきましてはアメリカの英語のティーチャーを入れておりますけれども、それと同時にこの洞爺湖町にはたくさんの外国人研修生、あるいは働いている方がおりますので、そういった人たちの声の部分として、中心のホールとして観光情報センターを利用できればと思っております。

とにかく洞爺湖町、ご婦人の方たちも茶道ですとかそういったことを教えられる方はたくさんいらっしゃいます。また、研修生の方たちも、また3年後、2年後に区切られて帰っていくわけなのですが、そこで洞爺湖町でお茶を学ぶとか、花を学ぶとか、そういった中でいけば、それはお互い恩返しとして母国語を教えるということ、決して無理なお願いではないのではないかなと思っております。

観光情報センターに外国人が訪れて、サミットの記憶が薄らいでいく中、外国人が常に集まっているのだよという思いを持って、観光情報センターの再利用ということをお考えいただければと思いますが、そういった点で、最後にですけれども町長のお言葉をいただきたいと思います。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏春君） いろいろなアイデアを出していただきまして、洞爺湖温泉にございます観光情報センター、今いろいろな意味で外国の方がお見えになっている、これは事実だと思います。せっかくある施設ですから、それをうまく利用しないほうはないかなという思いがございます。

今おっしゃっていただいたような、例えばお茶をやっていただける方ですとか、いろいろな面で和室をうまく利用できるような条件が整えば、私ども何とかそれを利活用していきたいなと思っておりますので、また知恵をかしていただきたいなと思います。よろしく申し上げます。

○議長（篠原 功君） 2番、下道議員。

○2番（下道英明君） お聞き苦しい点もございましたが、初めての一般質問、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（篠原 功君） これで、2番、下道議員の質問を終わります。

本日の一般質問は、これで終了をいたしました。

◎散会の宣告

○議長（篠原 功君） 以上で本日の日程はすべて終了をいたしました。

これで本日は散会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後 4時05分）